

西宮市内で迷蝶を採集す

新家 勝

Hypolimnias bolina Linné リュウキュウムラサキ ♂ IX. 11. 1987 西宮市田近野町

採集場所は、筆者が勤務するS工業開発センターの中庭。ここは、旧武庫川堤防の松林に囲まれた日だまりで、ちょっとした昆虫のオアシスになっている。ナガサキ、クロなどのアゲハ類が舞い、ヒオドシ、ルリなどのタテハ類が日なたぼっこをする。春、ツマグロハナカミキリやヒメトラハナムグリが花壇の草花で吸蜜し、初夏にはラミーカミキリがムクゲで発生する。五月の中、下旬コヤマトンボが林間を飛翔し、夏日、藤棚下の暗い池にはヤブヤンマが産卵に来る。

当日は、曇で気温は低く、ときには小雨のばらつくこともあったが、朝からアゲハ類が多かった。昼の休憩時、クロマツの裾にあるジンチョウゲから、黒いタテハが1頭飛び出した。おかしい！！ルリよりは大きく、色も紫だ。飛び方も違う。これはただものではない！！じっと目で追うと、建物の近くで旋回して戻って来た。夢（筆者は、南方系のタテハヤマダラチョウを採る夢をよく見る。「今度は夢ではない。本当だよ。」といい聞かせるのだが、ネットインしたとたんにも夢はさめてしまう）にまで見た南方系のタテハ、リュウキュウムラサキが目前にいる。

そっと手を差し伸すと、飛び立つが直ぐ同じジンチョウゲに止まる。何度か接近に失敗した後、立てた翅をそっとつかもうとしたが、さっとすり抜けて、今度は中中、戻って来ない。建物を飛び越えて旋回し、松林を潜り抜けてやっと戻って来たところを手の平に収めた。8月末の12号台風のときに、風に乗ってはるばる南の島からやって来たのだろうか。それとも、近くで飼育されていたものが、逃げ出したのだろうか。それにしても、蝶の集まるところが、よく分るものだと感心した。翅端はかなり擦り切れていたが、意外に鱗粉のはげ落ちは少なく、濃紫色の地に浮ぶ白斑が印象的であった。